

# Handsome

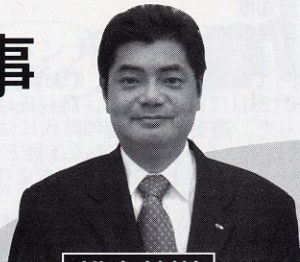
発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 岩田慎介 編集責任者 萬田寿夫 印刷所 東京印刷(株)

## 平成14年度「理事・監事」承認、「県出向役員」推薦決定！

### 理事



河端明彦



松本英樹



水康徳



小原伸夫



畠山広幸



土井裕次



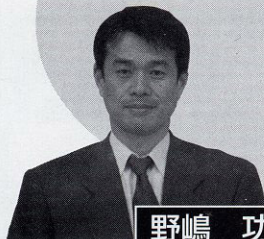
後藤秀之



中本高夫

平成14年5月15日（水）、境港市竹内団地の夢みなとタワーにて開催された臨時総会において、次年度理事・監事の承認、県出向役員の推薦の件が審議された。門脇浩二次年度会長より推薦の弁があり、議長に選任された萬田副会長のすみやかな議事進行のもと、同議案は満場一致にて承認された。8名の理事は異口同音に次年度の熱い抱負を述べられた。

### 監事



野嶋 功



前田 真



土井一朗

### 県出向



小林慎一



市位清明



三嶋雄司



中島太郎





## 5月例会「原点に帰ってるかい? - 会長との会話」 ～君は岩田会長の男の色気を感じたか～

注：今回、会長と話す場を提供していただいたことに敬意を表し、報告スタイルでの例会記事にしないことをお断りしておく。また、OB会員・当日欠席された会員には意味が通じにくいことも承りいただきたい。

### 5月例会（役員担当）次第

- ◆会長挨拶
- ◆臨時総会〔1面参照〕
- ◆トライアスロンタイム：現役トライアスリートである田部通子（たなべみちこ）さんをお招きし、選手の中からみたボランティアについてお話をいただいた。運営にとっても、選手にとってもなくてはならないものがボランティアの存在であり、見えざる手として選手を後押ししていることがよくわかった。
- ◆委員長タイム：司会を務めた高田Newカマーズ委員長が行った。その中で、ご自身のこの1年間での心境の変化や成長ぶりを一言一言かみしめるように述べられた。
- ◆岩田会長との対話の時間
  - ①選挙について
  - ②求められる会員像
  - ③中央会の知名度・認知度
  - ④今後の中央会の予算運営について etc...

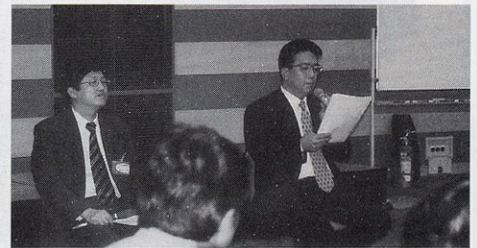
今年の阪神タイガースは絶好調である。宿敵読売ジャイアンツとのしごを削っているわけだから、にわか阪神ファンが出現するのもうなずける。さて、この原稿は初代ミスター・タイガース藤村富美男氏の命日にあたる5月28日に書いている。藤村氏は川上哲治元ジャイアンツ監督とライバル関係にあり、東の川上・西の藤村と評されるほどのスーパースターであった。選手兼任監督の時代には、『代打、ワシや!』の一声をして、代打監督サヨナラ満塁ホームランを引っ飛ばすというドラマチックな逸話を残している。その類まれな才能と勝負運でファンを魅了した藤村氏は、旺盛すぎるサービス精神が災いし、クーデターにより球団を追われ、V9監督となった川上氏と比べてあまりにも不遇なその後の野球人生を送ることとなる。

何が言いたいのかというと、我々は岩田会長を藤村富美男氏にしてはならないのである。会長自らに『代打、ワシや!』と言わせてはならないのである。たとえば、「求められる会員像」の話題で、欠席の多い会員への進退伺いについて会長に大なたを振るわせるようなことがあってはだめだ。現状を嘆くよりも、もっと多面的に捉え、わずかな突破口を探す努力をしていかなければならないのである。偉そうなことを書いているが、振り返れば、筆者も出欠問題に対して発言し、ただ単に不満を無遠慮に投げつけていただけのおもちゃ。今さらながら反省している。「求められる会員像」に限らず当日話し合われた議題について、我々ひとりひとりが今一度襟を正し、努力していかなければならない。

サヨナラホームランを引っ飛ばした当時、藤村氏40歳。裏を返せば、他の選手は何をやっていたんだということになる。土井直前会長の締め言葉の借りるならば、例会当日我々が岩田会長の大きさを引き出せなかったことやその役目を果たすべき中堅会員に元気がなかったことを反省すべきである。

年度事業はよく航海にたとえられる。岩田丸の帰港直前、つまりあと1ヶ月半で年度が満了するというタイミングでこのような例会が開かれたことの意味を感じて欲しい。岩田丸は豪華客船ではない。漁船である。船長自ら魚をとる。しかも、網や竿を使わず、手で直接あたりを探りながら。我々はいつものまにかいわゆる「餌取り」や針の届かない深海の魚になってはいまいか？ 喰いついて反応しよう！ 養殖ハチジューだめなんだ。「中央会」水道の激流にもまれた引きのよさを見せつけろ！

（広報：後藤公平）



## 温故知新

～今月は“ミスター中央会”こと第13期ご卒会木山三郎OBにお話を伺いました～

（南）テラーショー代表取締役木山三郎OBのご自宅を訪ねました。始めに玄関で迎えて下さったのは満面の笑みをたたえる奥様でした。その後木山OBが登場され、『手島君、久しぶりだな。』との言葉。『まだ1回しかお会いしたことがないのに…。』と恐縮し、質問形式にて話をお聞きしました。

－入会当時の思い出をお聞かせください。－

私が入会は中央会創立3年目の頃でした。ところが、申し込みはしたものの何日経っても事務局から何の返答も無く、『どうなっているのかな?』と思っていたところにポケベルが鳴り、電話したところ、当時の総務委員長の中居秀泰OBが、『今総務委員会をやっちょうけん、今からこいや!』と一言。私は『入会のOKももらってないし、総務委員会に行けども聞いてないし…。』と戸惑ったのを覚えています。当時の組織はまだまだ若く、一事が万事そんな感じで、会のルールもあまり決まっていませんでした。総務委員会として入会して、やったことといえば会の運営業務の流れを作ることでした。ちなみに新入会員パッチ授与式や厄落しとの会など今現在普通に行っている業務や行事の多くがこの頃から始まり、今や中央会の歴史となっています。

－全出席の記録を持たれる木山OBですが、中央会から学ばれたことは何ですか?－

仕事柄室内にこもることが多かったので、会に出たら見ることも聞くことすべて新鮮でした。せっかく良いチャンスを与えてもらったのに出席しない手はないわけで。出席しない人がいれば自宅にまで出向いて一緒に会を楽しむことを論じました。学んだことは数え切れないくらいいっぱいありますね。全部話すとはんサム1、2ページでは足りないぞ（笑）。

－それでは最後に現役会員に一言お願いします。－

青年の名のつくときの失敗は恥ずかしいことなんかない！思い切って積極的に何でもやること。低成長の時代だからこそ例会・委員会に出席して、積極的に異業種の人と出会い、話をし、相談して自分の会社に取り入れてみるべきです。そして、親友と呼べる友を作ること。45歳までに出会った友は一生の友となりますからな。

### 【後記】

いつまでも若々しく、言葉の端々から熱い思いが感じられた木山OB。取材後、『そうそう、これ見るか?』と渡されたバイナリーにはなんと！初版から今までのはんサムが全て綴ってありました。まさに“ミスター中央会”にふさわしい方と感じました。

最後になりましたが、木山OBにおかれましては貴重なお時間をいただきありがとうございました。取材した私が一番勉強になりました。

（広報：手島武司）





# 5月度委員会報告

## きずな委員会

平成14年5月18日(土) 於：いちい山荘 出席者/13名  
内容/年間活動のまとめ「チェックリスト作成」

## 情報メディア委員会

平成14年5月8日(水) 於：(株)インサイト 出席者/12名  
内容/コンピューターウイルス対策について講習会

## モラル委員会

平成14年5月7日(火) 於：じごん巢 出席者/12名  
内容/講師講演

講師：西伯町公民館 古曳正之氏  
演題：「今の子どもたち」

## 経営委員会

平成14年5月10日(金) 於：オリエンタルキッチン パンチャオ 出席者/8名  
内容/①1年間の総まとめ

## ②今後の委員会活動について

## Newカマーズ委員会

平成14年5月8日(水) 於：大連 出席者/12名  
内容/半期を振り返って各自の反省と感想

## 政治行政委員会

平成14年5月8日(水) 於：ホールサムインかいけ 出席者/10名  
内容/1年間の総まとめ

## 広報委員会

平成14年5月8日(水) 於：デリラウンジ夢 出席者/14名  
内容/①ハンサム6月号担当割

## ②6月担当例会の担当決め

## 総務委員会

平成14年5月8日(水) 於：じごん巢 出席者/15名  
内容/4月レクレーション例会の反省

## マドンナ 清子の 突撃! 隣の役員会

やあ諸君、ずいぶん待たせたがようやくこの待ちに待った機会がやってきた。とある筋から今月の役員会は「エンドレス」「激論」「事件勃発(?)」という情報を入手した。そこでわがK I K (Kouhou-lin-Kai?) はその状況をスクープすべく、信頼できる3人の諜報員を役員会に潜入させることに成功した。これは命を賭けた決死のレポートである。



### 国宮放造 (こくえいほうぞう)

平成14年5月1日(水) ホールサムインかいけにて役員会は開催された。神妙な面持ちで役員達は席についていった。進行役は浜田副会長が務め、滑らかな進行は2回目の副会長経験の表れのようであった。岩田会長の挨拶は静かに、そして淡々と自分自身の経験を交えながら熱き思いを伝えていた。多くの議題を協議決定していく過程は重厚であり、時にするどく、時に和やかに、また、時には烈火のごとく行われていった。激論を交わす場面もあったが、閉会時にはすべての議事がすみやかに決定したようであった。最後に役員担当の5月例会を成功させようというひとつにまとまり、散会した。

### 我戸衝子 (わいどしょうこ)

私は今日、役員会が行われるという部屋の前で様子を伺っております。会議ははじまっているようなので中に入ってみます。口の字型に会議テーブルが設置され、ひとりひとりの前に10数枚の資料があります。内容が気になります。録音テープを発見しました。どうやらこの一部始終を録音しているようです。あ、手を上げています。手を上げてから発言をしなければならないようです。時間は20時を過ぎたところです。急に辺りが煙たくなってきました。どうやらこれまでは禁煙タイムだったようです。笑い声が上がっています。非常に楽しげです。あ、何か問題が発生したようです。意見が分裂した模様です。このままもつれていくのでしょうか? どのような結末になるかこのままレポートを続けます。

### 武士道雄 (ぶしどうゆう)

礼に始まり礼に終わる。綱領唱和、目的・理念を発することにより自己の誠を再認識し、議に望む。長たるものの挨拶は仁・義・礼・智・信を現し、潔く強い意志を持ちあわせ、感銘を受ける。あますことなく、思慮深く議を尽くし、異のある者は正当に意思を述べ、いかなる疑問も残すことなく任をまっとうする。そして、決した事柄には忠義を尽くし、努めることを忘れず。体制というものに飛び込みし者たちの言と動はかくあるべきとの生きたる模範であろう。

ひとつの事柄を伝えようとした時、140名いれば140通りの伝え方があり、伝わり方があると思います。「全体の印象・雰囲気」を「枝葉のみで問題点だけを」「理論を重視」等、上記の3名は極端すぎる例かもしれません。しかし、そういう現実を認識して間合いや隙間に潜む事柄や意図を汲み取ることができるならば自分自身の器が広がるように思います。自分自身の目で、耳で、口で、事実を確かめてみて下さい。あなたはどのような表し方をするのでしょうか? それが出来ていくのが青年中央会であると教えて頂いたのが今年度の役員会であり、委員会です。

役員の皆様、遅くまで本当にお疲れ様でした。

(広報：桶村清子)

## 復刻! 「フレッシュさん、こんにちは。」～事務局編～



斉藤史哲 (さいとうふみあき)

4月1日より、鳥取県中小企業団体中央会に採用され、米子支所に勤務しております斉藤史哲と申します。事業協同組合等のお世話をすべく、頑張っております。また、西部青年中央会の事業運営のお手伝いもさせていただくことになりました。

1日も早く業務に慣れ、皆様方にご迷惑をお掛けしないように努力・精進いたす所存ですので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお申しあげます。



織奥理津子 (おりおくりつこ)

鳥取県中小企業団体中央会米子支所に4月1日より勤務しております織奥理津子です。

中央会の業務はもとより、社会人として学ぶべきことの多い未熟者ですが、皆様の活動がより快適なものとなるように、私にできることを増やしていきたいと思っております。

精一杯がんばりますので、よろしくお願いいたします。



## トライアスロンの取り組み 団体ボランティア責任者 前田 真

ハンサムを読む方の中に喫煙者は何人いるだろう？厚生省の調査によると、平成11年における成人男子の喫煙率は49.2%で、ふたりにひとりの割合である。中央会で考えれば、OB・現役含めて約350名のうち170名強の人が習慣的に喫煙をしている計算になる。また、喫煙者のうち「タバコをやめたい」と思っている人は70%に達している。我々に置き換えれば170名のうちの130名、ちょうど現在の現役会員数がこれに該当する。今日はこの130名の人に私の禁煙レポートを送りたい。

私は日に10～15本吸っていた。風邪を引いた時など一時的にやめていたが皆と飲んでいる時、つい「1本ちょうだい。」から始まって喫煙を繰り返してしまっていた。どうもアルコールが入ると喉や肺も煙に寛容になってしまいうらしい。しかし、アルコールとニコチンやタールが融合するとよけいに体に悪いときている。「やめたいけどやめられない」優柔不断な日々が続いていた。そんな私が一大決心をしたのはウエストがどんどん太くなり、下っ腹が出てきたからであった。『もっと体を動かせ。』『寝る前にたくさん食べるな。』『肉の3倍は野菜を食べろ。』言葉だけが空しく頭をよぎる。このままではだめだ！21世紀が始まるにあたり私は4つの体質改善をかかげた。そのひとつが禁煙である。禁煙もダイエットも意志の問題である。私はまず禁煙に目標を定めた。いろいろ勉強すると、喫煙者の体はニコチン依存症になっている。そこでタバコの代わりにニコチンを別な経路で体内に入れ、その摂取量を減らしていくことで禁煙に導く方法（ニコチン代替療法）を選んだ。

一般的に、治療に用いられるのがニコチンパッチやニコチンガムと言われるニコチン以外に何も含まれていない製剤を使う方法である。両者は好み（あるいは職場環境）で選べる。大体1ヶ月で禁煙できる。私の場合は30mgのシールを2週間分、20mgを1週間分禁煙にこぎつけた。実質期間は1ヶ月。最初は『吸いたくなったら1本ぐらい吸っちゃえ！』と余裕の気持ちで臨む。しかし、医師からは『シールを貼って喫煙すると、体内のニコチンが急激に増えてめまいがして倒れる。』と言われた。目覚めの一服や食後の一服がかなり誘惑をかけてきたが、シールをなでながら『がまん、がまん…』としのいだ。次の難関は飲みに行った時である。まわりが吸っていてもつまみを口に入れてなるべく口を動かしていた。そうそう、日中でもガムや酢こんぶは効果があるそうだ。そうこうするうちに、休日家にいる時はシールを貼らないでいてもそんなに辛くなってきた。だんだん間隔があき1ヶ月で3週間分のシールで禁煙できた。今でも吸うかもしれないというリスクはある。でも『まずい！けむい！！体に悪い！！』と嫌悪するようにしている。

感想としては単にタバコの量を減らしていく節煙などよりずっとスムーズに禁煙できた。シールの心理的効果もあったように思う。最後のシールなど実際ニコチンが入ってなくても「貼っている」という気持ちだけで禁煙していただろう。ちなみに、シール代約6,000円×3箱と診察代で約2万円。250円のマイルドセブン80箱分である。皆さん、シールを貼って3ヶ月持続すれば元は取れます。ぜひ禁煙にトライしてみませんか？

最後になりましたが、禁煙の努力に比べれば苦勞が共有できるトライアスロンのボランティアははるかに意義がある。7月21日はぜひ参加しよう！

## 言わしてごしない Part 11

最近、私が所属している青少年ボランティア団体の20代半ばの後輩と食事をする機会があったのだが、その会話の中である言葉が気にかかった。

彼は美味しそうな料理を目の前にして、『渡辺さん、これやばいですよ。』とか、その料理を一口食べて一言、『あー、本当にやばい。』というように“やばい”という言葉を使っているのだ。

問題は“やばい”という言葉の使い方である。“やばい”という言葉が国語辞典〔大辞林 三省堂〕で調べてみると、

1. 身に危険が迫るさま、あぶない\*
2. 不都合が予想される

とある。

これを見ると明らかに後輩の使い方は間違っていることになる。そのことを彼に問いただすと、『自分がやばくなるくらい、おしいという意味ですよ。』とさらりと答えてくれた。これ以降、“やばい”という言葉が気になって仕方がなかったが、先日TVを見ていてアイドルグループのひとりが食事をとる時、やはり後輩と全く同じ使い方をしていた。

そういえば先月、米子市公会堂で「ら抜き殺意」という演劇が開催された。ある熟年紳士が、とある事情で若者の下で働くことになるのだが、その若者が「見れる」「来れる」「食べれる」というように現代の日本語の乱れの象徴とも言われる“ら抜き”言葉を連発するのだ。彼はそのことに段々腹を立て、ついには殺意にも似た感情が漂いはじめていく…といった内容の現代喜劇である。

とまあ、さすがに殺意までは抱かないものの、最近の若者（自分も若者のつもりでいるが）の言葉を聞いていると、理解に苦しむシーンに出くわすことが多々ある。日本語の乱れについては今に限ったことではない。前述の演劇の作家永井愛氏によると明治時代の女性雑誌にも若い女性の言葉づかいを嘆く文章がよく出てきたという。（『何々だわ』『何々してよ。』などと言うのは下品だとか、『最近自分の夫を主人と言う人が増えて聞き苦しい。』という記述！があったりとか）

話し言葉というのは見た目同様、その人をダイレクトに表現していると思う。それだけ大切であるにもかかわらず、最近は見ただけで目ばかり気にして話し言葉にまで気が回らないという人間が増えているように思える。自由が重んじられる現代だが、相手が不愉快と感じるならば、それはそれで問題ではなからうか。

（広報：渡辺一徳）

## お知らせ

政治行政委員会 石指智会員所属企業変更

（変更前）(有)永田組

（変更後）(株)アーバンリゾート

米子市熊党201-2 TEL 27-2511 FAX 27-3314

## 6月役員会報告

6月定例役員会が平成14年6月3日（月）、米子食品会館に於て開催されました。当日の主な議題は、次の通りです。

- (1) 6月例会、7月総会開催の件
- (2) 収支見込みの件
- (3) その他

※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

## 6月例会案内

と き 平成14年6月19日（水） 19：00～

と ころ ホテルサンルート米子

内 容 委員会報告および次年度委員長抱負

## 天 声 徹 語

今年の春、大変うれしい出来事があった。淡水タナゴの一種であるアカヒレタビラという小さな魚の移植による繁殖が確認できたのである。移植を始めて3年目のことである。本種は、鳥取県では十数年前に絶滅したとおもわれていた淡水魚である。7年前、偶然にその魚を捕獲し、毎日のように観察していたが、ある時その川の改修工事が始まったのをきっかけに移植を試みたのである。環境の変化にも負けず、小さな命が人間の届かぬところで細々と幾年も世代交代を繰り返しながら、けなげにも生き続けていた。なんと少しでも絶滅だけは避けなければとのおもいからの決断だった。

しかし、自然界の生態系においては、他種との共生によって成り立つという神秘的なメカニズムがあり、本種だけの保護では永遠の保護にはならないのだ。そんな良い条件が揃った河川も今ではそう簡単には見つけられない。それでも、やっとなのおもいで見つけた小川に全てのおもいを込めて放流。それから毎年、繁殖状況を調査していたのだが、昨年までは全く確認できずにいた。やはり駄目かと諦めかけていた今年の春、かすかな期待を抱いて覗き込んだその水面下に明らかに本種とおもわれる稚魚の姿を確認。それでも、捕獲してこの手の中で確認したくて夢中で網を入れた。間違いなかった。孵化してから1年後の本種だった。心の中で歓喜の叫びをあげながら、夢中で他の場所も確認したがやはり間違いなかった。とりあえず、移植は成功という実を結び、本種の保護には一応成功の兆しを見ることができた。たまたまひとりのマニアの目にとまった本種は生息への可能性が出てきたのである。

しかし、今後はまだまだ安心できる段階ではなく、依然として注意深く見守っていかなければならない状況である。県はこの度、本種をレッドデータブックに掲載し、絶滅の恐れのある地域個体群として指定した。ただ、本種はまだ幸せな方で、そもそも人の目にもとまらず、人間が生きている陰で人知れず消えていった小動物がどれだけの数かとおもうと身につまされるおもいになる。小動物の生息状況は我々人間が自然界で生きていくためのバロメータでもあるのだ。自然界の中で「生かされている」我々は今一度自然環境の在り方を省みる必要があるのではないかと。